

園長だより NO35

進級、入園から2か月が経ちます。子ども達の生活も軌道にのってくる時期でもあります。子ども達は自分の「やりたい」「やってみたい」遊びを探し、みつけ、考え、遊んでいます。今回は遊びの一こまを取り上げ、子どもたちの遊びについて考えてみます。

30年前のベストセラー

かれこれ30年も前のこと、題名につられ購入した本がありました。

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」という本です。書店に行き、保育者なら心惹かれる題名であった。

筆者はローバーフルガム、牧師が綴ったエッセイであった。題名につられ買って見たものの砂場で学んだことについてはごく数ページであったと記憶にある。

本棚の片隅に置かれたものを取り出し、読んでみました。砂場で学んだことは以下のように記してありました。 ※一部抜粋

人間はどう生きるかどんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを全部残らず幼稚園で教わった。

人生の知恵は大学院という山のてっぺんではなく、幼稚園の砂場に埋まっていたのである。わたしはそこで何を学んだのだろうか

なんでもみんなで分け合うこと
ずるをしないこと
ひとをぶたないこと
使ったものは必ず元の場所に戻すこと
ちらかしたら自分で後片付けをすること
人のものに手を出さないこと
誰かを傷つけたらごめんなさいということ
食事の前には必ず手をあらうこと

※ 以下省略

このように幼少期に生きるすべを学んだと書き記されています。

「砂場で遊ぶ」

前置きが長くなりましたが保育園での砂場で遊ぶ姿から子ども達の学びを感じとってみましょう。

砂場であそびことは子ども達の大好きなあそびのひとつ、技術も知識もなくとも、ごく自然に遊びだすことができます。昨今、入園当初、砂遊び、どろんこに抵抗を感じる子ども達もいますが自然と遊びの楽しさをわかってくるようになっていきます。



感触を楽しむ
シャベルで集める。



バケツに砂をいれて、お散歩だよ

砂あそびの楽しさはその素材の魅力です。子ども達の出会いは素材(材質)に触れることからはじまります。手のひらで砂の表面をなでる、さらさらとした感触、手で砂をすくいばらばらとおとしてみる。指の間からこぼれる砂を興味深く、不思議そうにみつめる。砂をかき集め山をつくる。ひたすら穴を掘ってみる。砂絵を楽しむ姿もある、指でかきまぜ、そこにできた形をたのしむ。道具が扱えるようになるとシャベルを使う、型抜きに興じることもある。

時にはままごとのおいしい料理やデザートに様変わりもする。



仲間と一緒に川をつくる。
目的を持ち協力する

年を重ね、成長していくと遊びも発展していく。山を作り、トンネルをほり、川や湖をつくり、時にはテーマパークを再現しようとする。

2019.5.24

水を流す
僕たちは水汲み係
役割が生まれる。



単純な作業で掘った穴もそれぞれのみかたや思いで異なる。大きな湖にみえたり、恐竜の骨の発掘場所にもみえる。温泉にもみえる。砂場は子ども達の創造(想像)の宝庫でもある。

「砂場は育ち、学びのベース基地」

遊びの中で気づきや発見もある。遊びをより楽しくしようと知恵を絞りだす。ひとり遊びからはじまった遊びも、同じ空間にいる子どもから刺激をうける。ひとり遊びから数人の遊びへ発展もある。幼児にもなれば仲間と一緒に遊ぶことになる。「○○しよう」「○○をつくろう」と一大プロジェクトに発展することもある。当然遊びでの約束も生まれる。

単純な遊びのようで実に奥が深い、単純に見ればあっさり見過ごしてしまう、子ども達の姿に関心を寄せ、遊びの姿に目を凝らし、心の扉を開けておくと、子ども達の育ち、(育とうとする)が伝わってきます。冒頭で上げた著書の一文に類似し子どもたちは多くのことを学び、生きるすべを獲得しているのです。

(園長 廣部信隆)